

伝える自己改革

～ J A福岡市 “**不断の**” 取り組み～



(平成 30 年 3 月末版)



JA福岡市はこれまで、さまざまな “不断の”自己改革に取り組んでまいりました。

ここ数年、行政からJAグループに対して「農協改革」の要請がなされています。その根拠は農業所得の向上とされ、そのためにJAは農業サービス業に特化する方向で自己改革するよう求められています。総合事業としての枠組みがなくなるとこれまでのような営農や相談の事業はできなくなります。

また、行政が示す「自己改革」についてはもともとJAが組合員と共に考え、自ら実施してきたことも多く、特に米づくりにおいても私たちJA福岡市は米の減農薬栽培や買取販売など、いち早く先進的な取り組みを実践してきました。



今回、このような時代の流れのなか、組合員の皆様にJA福岡市の農業と食料に関する取り組みを改めて知っていただくと考え、本冊子を作製しました。全ての取り組みではなく、代表的な12項目に絞って記載していますので、ぜひお目通し下さいますようお願い申し上げます。

これからも、組合員の皆様と一体となったJA福岡市であり続けたいと願っております。何かご意見がありましたら、いつでもお気軽にお聞かせ願えれば幸いです。



目次

- 生産資材のコスト低減に向けた取組み … P1
- 減農薬米生産運動の取組み … P2
- 米の買取り販売による農家所得増大の取組み … P3
- ライスセンターの設置 … P4
- 6次化商品開発による農家所得の向上 … P5
- 農産物直売所事業展開による販売高増大の取組み … P6
- 学校給食への出荷取組み … P7
- TAC!組合員の意見・要望を伺いお客様満足度アップ … P8
- 炭酸ガス発生装置導入による増収 … P9
- 大豆加工指導グループ「まめひめ」による伝統食継承活動 … P10
- (株)JA ファーム福岡 農作業受託実践の取組み … P11
- 農の応援事業 無料でヘルパーを紹介しています … P12

【 生産資材のコスト低減に向けた取組み 】

部署： 資材課

<取組みの概要>

- ① 利用者の実態に即した注文方式に改善し、予約注文(予約割引価格で供給)の利用を拡大しました。
- ② 近隣JAとの連携、取扱商品や仕入れ先の見直しにより資材価格を引き下げました。
- ③ 行政との連携(補助事業活用)により園芸施設の整備を進めました。

<事業化(プロジェクト化)成功のポイント>

① 予約注文書様式の改善と生産部会に合った利便性向上

- ・ 農事組合向けの予約注文
 - … 注文書を見易く・記入し易い様式へ(A4⇒A3版に拡大、おすすめ商品の紹介、カラーでわかりやすく…など)
- ・ 各生産部会向けには
 - … 農薬の重要品目に特別予約価格を設定(※)、予約注文の実施回数を増やすなど利便性も向上しました。
※生産部会に要望調査を実施し、栽培において重要な農薬には「特別予約価格」を設定、通常より更に値下げを実施。

② 近隣JAとの連携と仕入れ先の見直しによる資材価格引下げ

- ・ 近隣JA・全農ふくれんと定期的に情報交換会を開催
 - … 共通して使用している資材については、銘柄を集約して価格引下げに取り組みました。
- ・ 各種資材の仕入れを見直し
 - … 従来の全農からの仕入れを見直し、仕入れ先を複数にしました。
特に農薬は、入札を実施して価格引下げを実現しました。

③ 行政の補助事業を活用した園芸施設にかかる農家の費用負担軽減

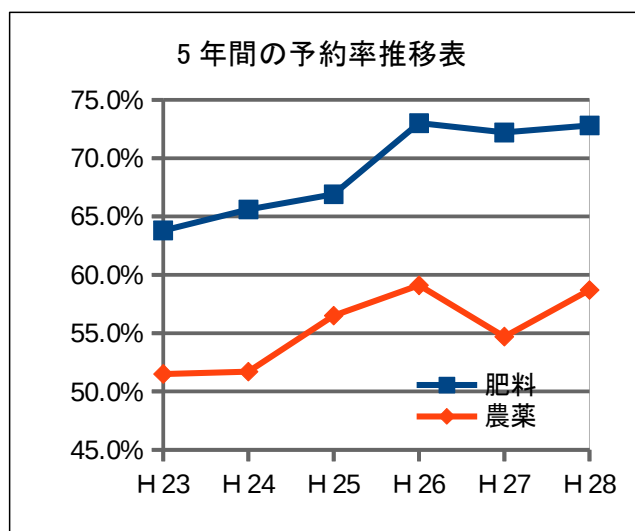
ハウス新規建設や既存ハウスの補修、先進装置等の導入には、補助事業の活用を提案して生産者の負担を軽減しました。



<農家のメリット・農協のメリット>

①の例

	肥料	農薬
H23	63.8%	51.5%
H24	65.6%	51.7%
H25	66.9%	56.5%
H26	73.0%	59.1%
H27	72.2%	54.7%
H28	72.8%	58.7%
H28/H23 対比	+9.0%	+7.2%



②の例

<H29 農薬の特別予約価格の一例> (税込)

農薬名	アミスター-20 フロアブル	オラル 顆粒水和剤
規格	250ml	300g
店頭価格	4,430円	10,710円
通常予約	4,223円	10,252円
特別予約	3,480円	8,980円
値下げ幅 (通常-特別)	-743円	-1,272円

③の例

<H29 補助事業の実施実績> (税抜)

事業種別	戸数	事業費	補助金
ハウスの新築	9	209,631 千円	104,854 千円
ハウスの補修	4		
資材・装置の導入	17		
計	30		



【 減農薬米生産運動の取組み 】

部署 : 営農販売課

<取組みの概要>

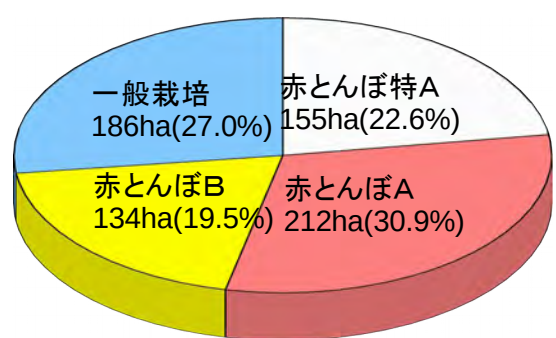
農薬の使用回数を減らすことにより、農家の健康を守りつつ資材(農薬)コストの低減、無農薬・減農薬による有利販売および地域環境保全に努めています。

<事業化(プロジェクト化)成功のポイント>

- 1. 農薬の使用回数を減らす**
 - ① 【昭和 56 年】「稲に農薬を散布すると体中が農薬まみれになり、呼吸が荒くなる」という生産者からの訴えがあり、**農薬を減らす稲作りの研究**を開始しました。
 - ② 防除基準どおりに農薬散布をしなくても米ができることがわかり、**田んぼの状況を見て防除を行う**ようになりました。
 - ③ 【昭和 58 年】「**虫見板**」を配布。「虫見板」を使って、田んぼの害虫の有無を自ら確認し、**農薬散布の可否を判断する減農薬運動**が広がっていきました。
 - ④ 【平成 8 年】「**ジャンボタニシ**」による除草試験を開始。害虫であったジャンボタニシで**除草剤を使用しない栽培方法**を確立しました。
- 2. 無農薬・減農薬栽培による有利販売**
 - ① 【昭和 59 年】ふくおか西部生協(現グリーンコープ)とお互いに顔が見える産直米の取引を開始しました。
ふくおか西部生協が欲しい「お米」=減農薬で栽培された「お米」
 - ② 以後、栽培技術が向上し、取引量も増えていきました。
平成 29 年産取引量 : 35,700 袋/30kg



平成 29 年産
JA出荷契約面積 687ha



<農家のメリット・農協のメリット>

- 農薬の使用量が激減し**農薬による健康被害が減りました。**
- 環境保全型水稲栽培につながり**地域と共存できる水稲栽培**となりました。
- 産直米の取引により**農家の所得向上とJA販売高向上**が達成されました。
- 農薬使用回数が減り**農薬購入費を最小限に抑える**ことができました。

赤とんぼ特 A	栽培期間中、「無農薬」かつ県が定める「減化学肥料栽培」で栽培されたもの。
赤とんぼ A	栽培期間中、「無農薬」で栽培されたもの。
赤とんぼ B	栽培期間中、農薬使用成分「4 成分以内」で栽培されたもの。但し、箱施薬剤は使用不可。
一般栽培	上記以外の慣行栽培。

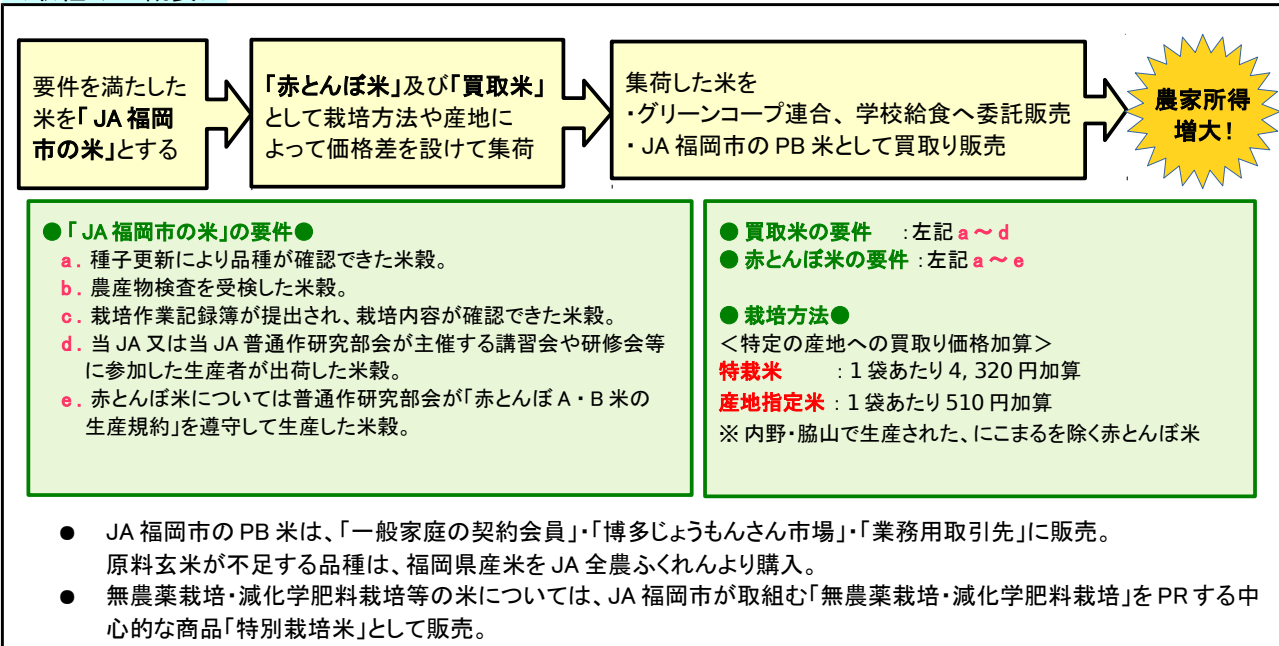
※平成 29 年産 JA 福岡市水稲作付面積:1041ha

全国に先駆けて

【米の買取り販売による農家所得増大の取組み】

部署： 営農販売課

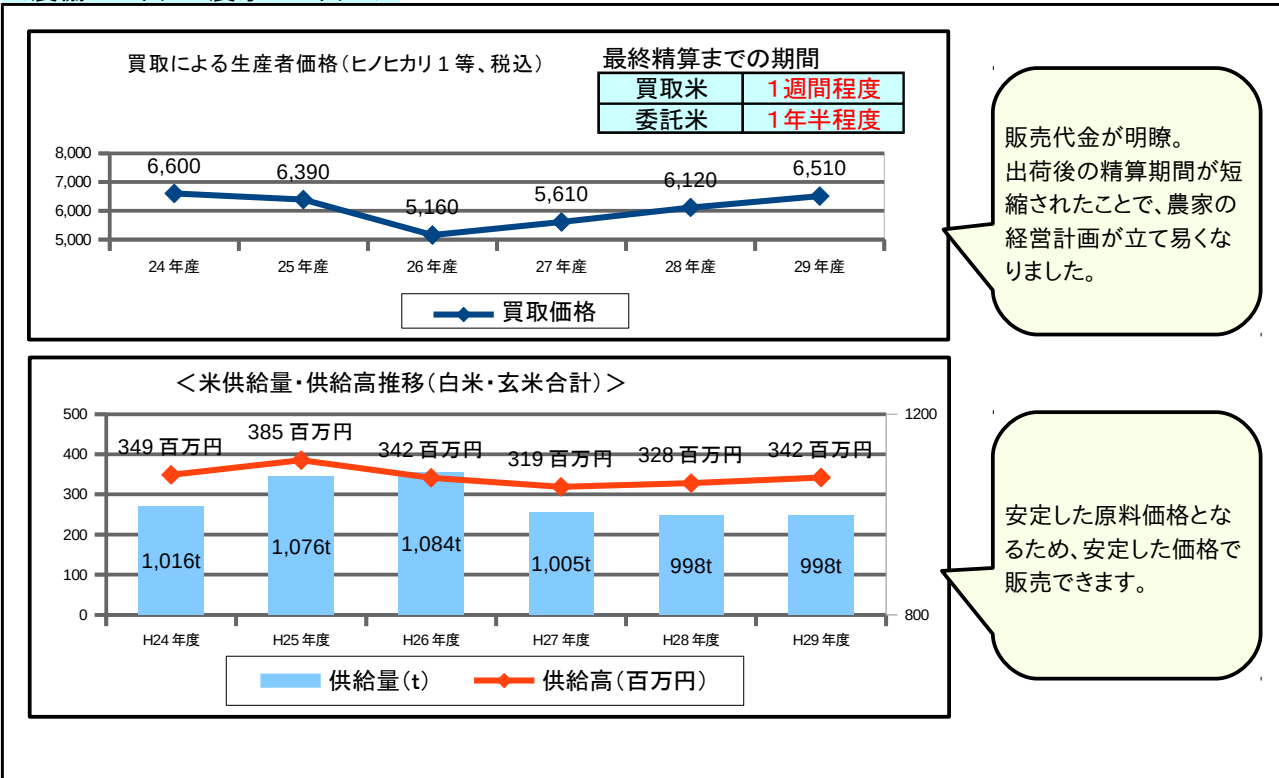
<取組みの概要>



<事業化(プロジェクト化)成功のポイント>

- ◆ 出荷者からの買取りを行うことで、**販売代金が明瞭になり、精算期間も出荷後約1週間程度に短縮できました。**
(委託米の代金精算は1年半程度)
- ◆ 赤とんぼ米の販売を通して「無農薬栽培・減農薬栽培・減化学肥料栽培」などの取組みが、福岡市の環境保全に貢献しており**地産地消こそが地域の自然環境を維持していくための一番の方策であることをPRできることで販売の強化につながっています。**

<農協のメリット・農家のメリット>



【ライスセンターの設置】

部署： 営農販売課

＜取組みの概要＞

- 平成23年度に早良共同出荷糶摺り施設を設置(平成24年度から稼働)
- 平成24年度に西ライスセンターを設置(平成25年度から稼働)
- 平成28年度に早良共同出荷糶摺り施設に乾燥機を設置(早良ライスセンター)

＜事業化(プロジェクト化)成功のポイント＞

1. 補助事業を活用した建設

① 早良ライスセンター

- 平成23年度強い農業づくり交付金
- 平成28年度強い農業づくり交付金

② 西ライスセンター

- 平成24年度農業・食品産業競争力強化対策事業



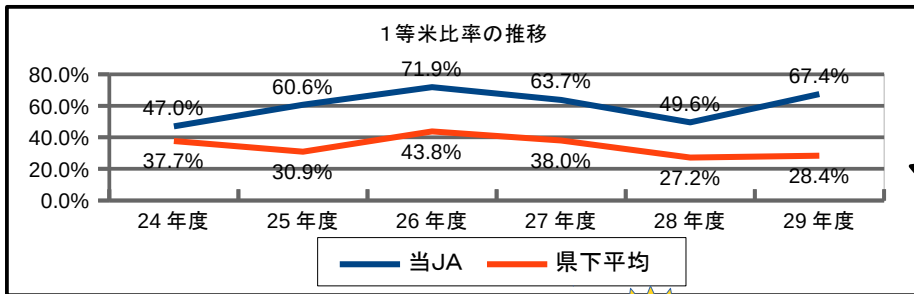
早良ライスセンター



西ライスセンター

＜農協のメリット・農家のメリット＞

1. 共同で調製するため、品質が安定(1等米比率の向上・水分及び品質の均質化)

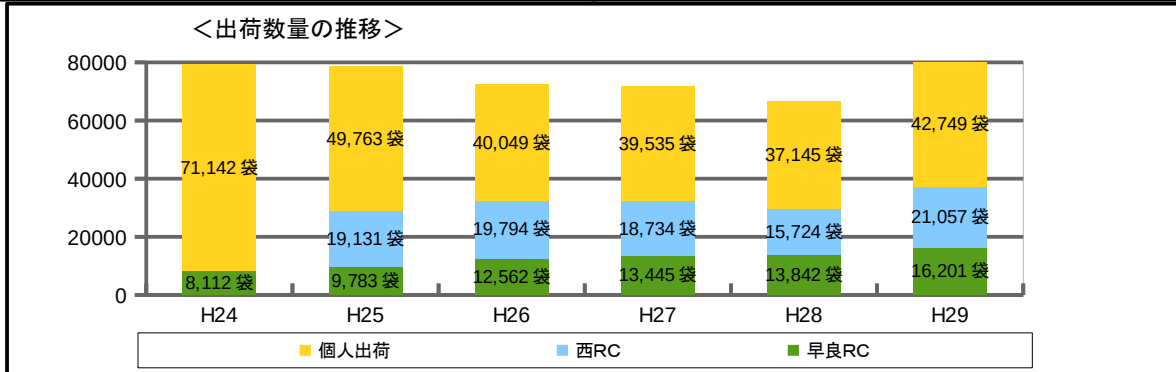
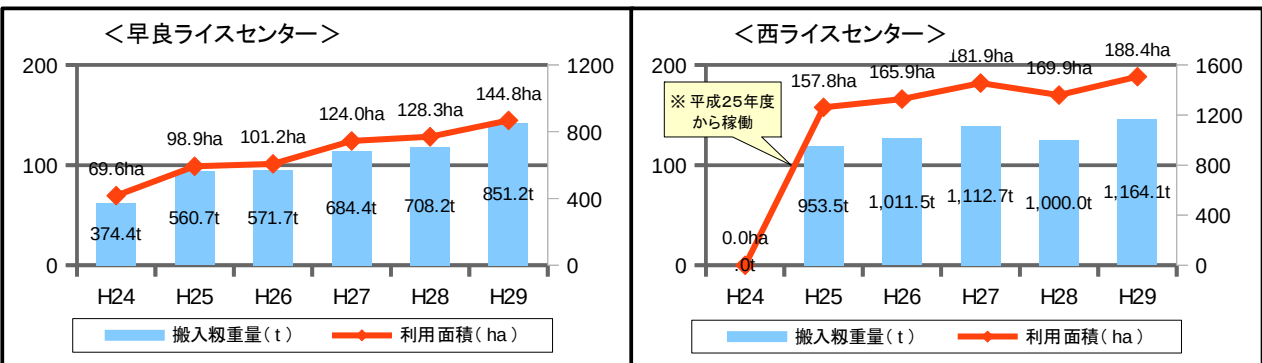


県下平均の1等米比率に比べ、当JAの1等米比率は高い状態で推移しています。

1等米比率
向上!

2. 農家個人が所有する乾燥機の買い替えが不要 生産コストの削減

3. 実績推移



【 6次化商品開発による農家所得の向上 】

部署： 営農販売課

<取組みの概要>

甘夏【規格外品】・あまおう【5月の最盛期】・元岡とまと【規格外品】をピューレ加工品として、食品業者に原料供給を行い、規格外品の商品化と農家所得の向上を達成します。

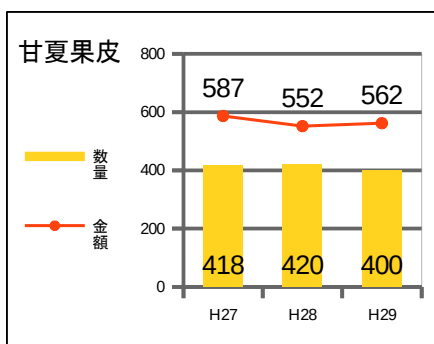
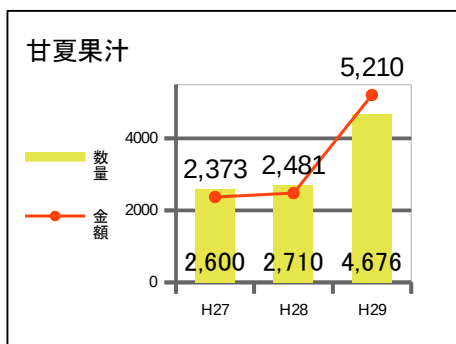
<事業化(プロジェクト化)成功のポイント>

●JAが取り扱う青果物の規格外品の活用

福岡市や学校給食活用協議会と連携しながら、学校給食納入業者と開発研究を進め、規格外品の有利販売による農家所得向上を図りました。

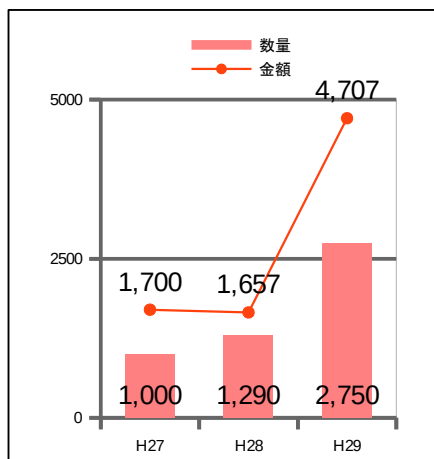
<農家のメリット・農協のメリット>

●甘夏（平成25年から）



H25年度「このしま加工部会」(5農家)設立に伴い、以前まで自家消費や利用していなかった規格外品が、加工品を取組む事により、6,788千円の農家所得向上となりました。

●あまおうピューレ（平成24年から）

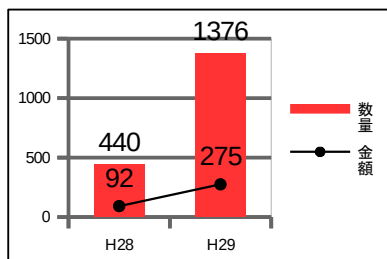


自家消費や利用していなかった規格外品をH24年度産から加工用として出荷開始し、28年度産あまおうピューレ(15t)を糸島みるくぶらんとへ販路拡大、加工用として22.2tの出荷実績となりました。このことで部会反収4.3t(前年産より0.9t増)となり、部会販売高403百万円(前年産より84百万円増)とすることができました。



このほかにも、あまおうラテ、あまおうカステラ、あまおうタルトなど...

●元岡トマト（平成28年から）



規格外品のトマトを使用して、ケチャップを製造しました。イベントや催事などにて販売、元岡とまとの産地PRも図れました。

【農産物直売所事業展開による販売高増大の取組み】

部署： 営農販売課

＜取組みの概要＞

- ① 平成 17 年 3 月に農産物直売所「博多じょうもんさん周船寺市場」を設立し、出荷会員組織「直売所利用組合」と一体となった事業展開と運営による直売所を展開しました。
- ② 地元の農産物以外にも果物等の仕入や管内の業者との連携の下、品揃えを強化しています。
- ③ ポイントカードの推進による顧客数の増加に取り組んでいます。

＜事業化(プロジェクト化)成功のポイント＞

① 地域に根付いた農産物直売所の展開

- ◆ コンパクトな直売所として管内に5店舗を展開しています。
- ◆ 「直売所利用組合」の意見・要望を全体会議や役員会で反映させながら、利用組合とJAが一体となった事業を展開しています。



② 利用客の利便性向上

- ◆ 他JAからの仕入も導入して店舗品揃えを充実しています。
- ◆ 地元業者の弁当・惣菜・精肉・魚・加工品等も品揃えています。
※業者会員 107 人(平成 30 年 3 月末現在)
- ◆ 平成 29 年度より全店舗とも全日営業を実施しています。
- ◆ 平成 28 年 7 月 よりクレジットカード端末機を導入しています。

③ ポイントカード顧客の推進による顧客数の増加(平成21年7月～)

- ◆ 毎週水曜日をポイント3倍デー、毎月2回のポイント5倍デー、毎年2日間のポイント10倍デーを設定しています。

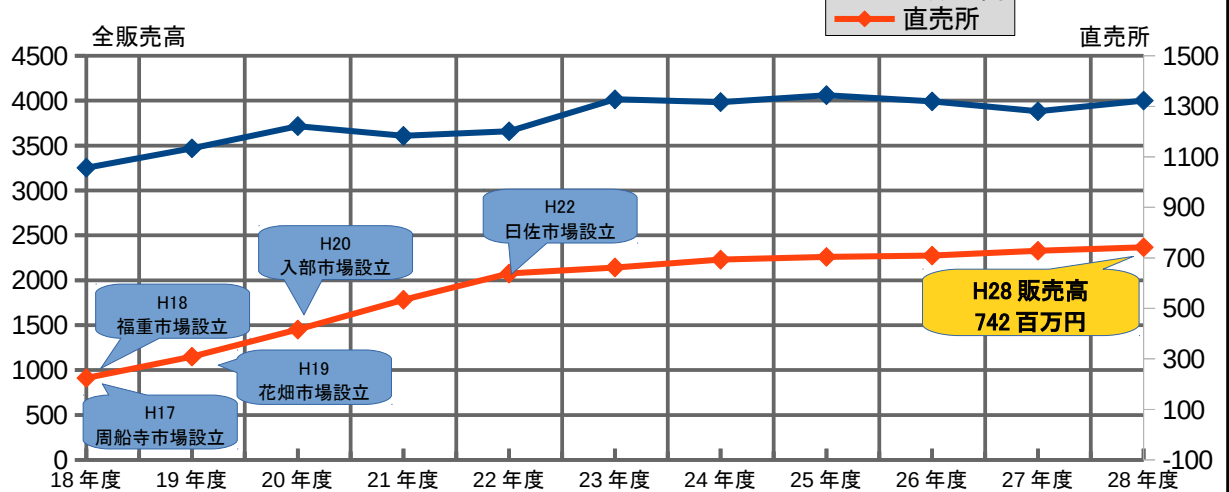


販売事業に占める直売事業の割合は 18 % (28 年度)、占有率は着手年度(18 年度)の 3 倍に！
直売所販売高も着手年度(平成 18 年度)の 3 倍に！

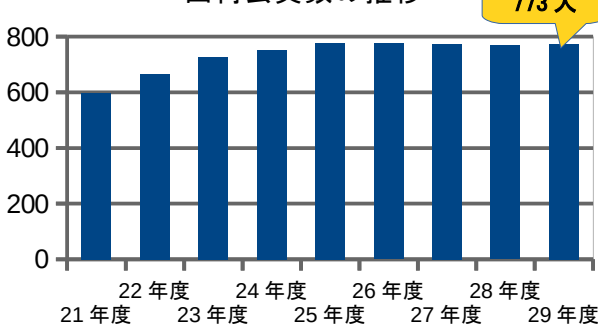
平成 28 年度直売所売上高： 923,088 千円、直売所販売高： 742,650 千円

＜農家のメリット・農協のメリット＞

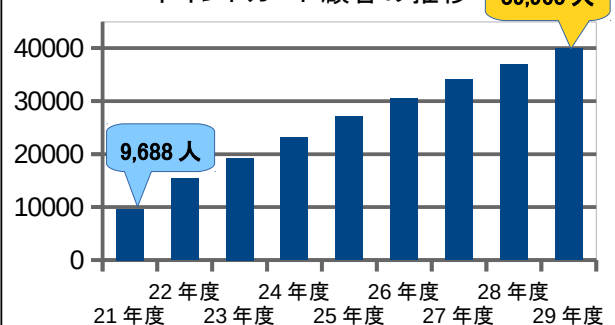
JA販売事業の全販売高と直売所販売高の推移 (百万円)



出荷会員数の推移



ポイントカード顧客の推移



【 学校給食への出荷取組み 】

部署：営農販売課

<取組みの概要>

- 市内産青果物を給食に使用し地産地消を推進。
- 給食相対取引による安定した単価の確保。

<事業化(プロジェクト化)成功のポイント>

●給食献立メニューと市内産青果物の出荷時期のマッチング

福岡市教育委員会に対して市内産青果物の年間の出荷時期と出荷量見込を提示し、市内産青果物を活用したメニュー立案を推進します。

<農家のメリット・農協のメリット>

●平成28年度「小学校給食出荷実績」※12品目

枠内説明・・・①が出荷数量、②が販売高、③が出荷時期。

 <p>米 ①7,000袋 ②45,234千円 ③通年</p> <p>出荷量販売高1位</p>	 <p>春菊 ①4,280kg ②3,189千円 ③10月～3月</p>	 <p>小松菜 ①6,115kg ②3,386千円 ③4月、10月～3月</p>	 <p>えのき ①10,475kg ②3,284千円 ③4月～6月、10月～3月</p>	 <p>トマト ①3,024kg ②1,755千円 ③6月</p>	 <p>かぶ ①4,680kg ②1,095千円 ③1月</p>
 <p>かつお菜 ①1,130kg ②463千円 ③1月</p>	 <p>ブロッコリー ①2,430kg ②1,822千円 ③2月</p>	 <p>アスパラガス ①40kg ②76千円 ③5月～6月</p>	 <p>かぼちゃ ①4,370kg ②1,311千円 ③7月</p>	 <p>玉ねぎ ①35,620kg ②5,383千円 ③4月～7月</p> <p>出荷量販売高3位</p>	 <p>大根 ①29,808kg ②4,585千円 ③11月～3月</p>

●小学校給食 相対単価比較

品目例: キャベツ	市場平均単価 (円/10kg箱)	小学校給食単価 (円/10kg箱)
平成28年度	1,122	1,287
平成27年度	726	1,097

販売単価の向上

農家所得の向上



出荷量販売高2位

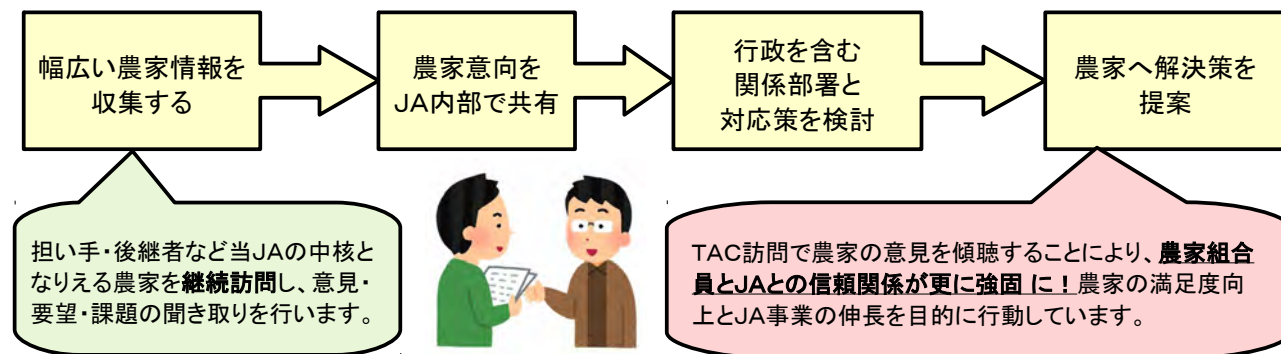
キャベツ
①111,190kg
②20,002千円
③11月～3月

※市場平均・小学校給食単価はいずれも11月～3月出荷のA3L～ALで比較。

【 TAC！組合員の意見・要望を伺いお客様満足度アップ 】

部署：農業振興課

<取組みの概要>



<事業化(プロジェクト化)成功のポイント>

TACは農家に訪問して！会って！膝を突合せて！話を伺う！

農家に寄り添うことにより、幅広い農家の意見・要望等を引き出すことが求められています。農家の意見を迅速・丁寧にJA内部で検討・対処し、意見・要望・課題の解決を行うことで、農家からJAが頼りにされ、農家とJAの信頼関係が生まれ、更にはJAが頼りにされる組織となるようにTACは活動しています。



★成功のポイントは・・・

- ◆ 農家の気持ちになって話を聞いています(親切・丁寧な対応で聞き取ることを意識しています)。
- ◆ 知り得た情報はJA内部で共有するとともに、迅速・丁寧に対処方法を検討し、すぐに農家に対応しています。※相談内容によってはTACが全て対応するのではなく、適材適所の担当部署を選定し農家に紹介して対応します。
- ◆ 農家が求める情報提供と必要な商品の提案推進を行っています。

<農家のメリット・農協のメリット>

農家のメリット(満足度アップ) = 農協のメリット

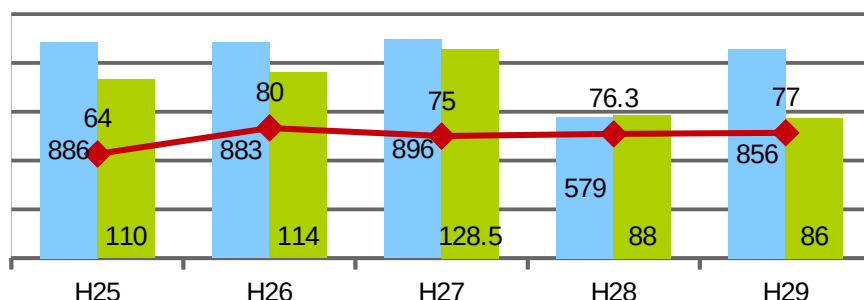
TAC訪問により相談をしやすい環境を作り出し、農家と膝を突合せ話を伺うことで、農家の個人的な意見・要望・課題を引き出すとともに、JA総合事業の強みを活かした対応で農家の意見・要望・課題の解決・改善策を提案し、農家の満足度向上を図ります。

= JA事業の伸長を図ることと同じ！



TAC面談実績

- 訪問回数(回)
- 活動日数(日)
- ◆ 情報収集率(%)



【 炭酸ガス発生装置導入による増収 】

部署 : 営農販売課

<取組みの概要>

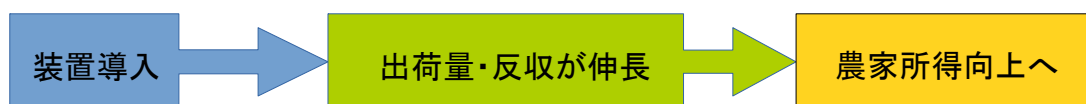
炭酸ガス発生装置導入による増収を図り農家所得を向上します。

<事業化（プロジェクト化）成功のポイント>

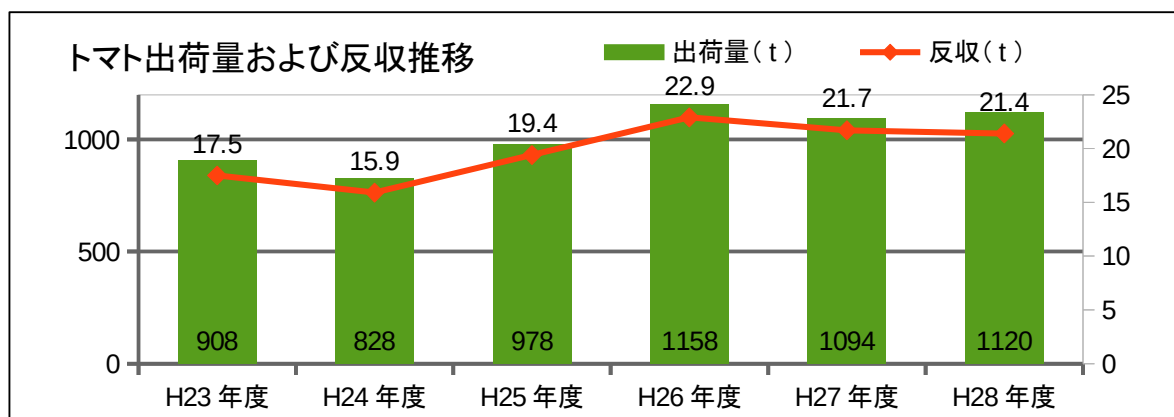
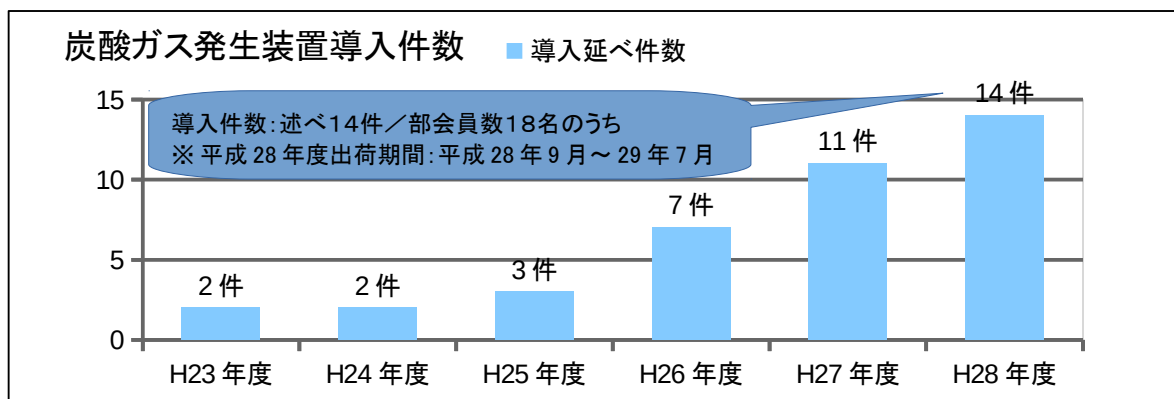
補助事業にて炭酸ガス発生装置の導入を行い、普及センター・JA・部会と炭酸ガスの施用技術の検討を図り、部会会議（定例会等）にて各生産者の炭酸ガス施用方法について、情報共有を行った。



<農家のメリット・農協のメリット>



平成 23 年度から導入を開始、平成 25 年度から反収の伸長が見受けられ、近年では反収 20 t を上回る数値となっています。



【大豆加工指導グループ「まめひめ」による伝統食継承活動】

部署：食農福祉課

＜取組みの概要＞

- 大豆加工指導「まめひめ」活動に賛同する女性部員で構成したボランティアグループ(104名)。
- みそ造りを通して、福岡市管内(東区を除く)の小学校等で次代を担う子どもたちを対象に、公民館では地域住民を対象に、日本の伝統食のよさを広める活動を実施。



▼ 公民館みそづくり教室の様子



＜事業化(プロジェクト化)成功のポイント＞

- 【1】日本の食文化は急激に欧米化し日本の伝統食が失われつつあります。そのなかで伝統食であり優れた保存食でもある「みそ」にスポットをあて、子ども達への食育や地域住民へ広く「食べることの大切さ」をPRします。
- 【2】ボランティア組織をJA運動の担い手として位置づけ、JAが主催する研修会やグループ合同会議を行うことでグループ各人の知識向上ができます。支店を超えた繋がりができ、組織活動の強化に繋がります。



▲ 小学校でのみそづくり教室の様子(上)と児童からの御礼の手紙(右)

＜農家のメリット・農協のメリット＞

農家のメリット

- ボランティアを通じて、地域貢献ができます。
- みそ造り指導を通して、保育園児や児童と触れ合うことが生きがいとなります。
- JAを通して、支店を超えた仲間づくりができ、その仲間と共に学ぶことができます。



みそづくり=組織活性化のミソ!

農協のメリット

- 「食と農」を基軸とした取組みを地域住民へ広くPRする活動を行うことで、地域での「JAの存在感」をアピールできます。
- 伝統食継承の活動に賛同する同じ志の女性部員を、ボランティアグループとして位置づけることにより、女性組織の強化が期待できます。

【 (株)JAファーム福岡 農作業受託実践の取組み 】

部署：(株)JAファーム福岡

<取組みの概要>

「JA福岡市 管内農地 2,000ha 維持」をスローガンに、不耕作地や遊休農地の改善のため、平成20年10月「(株)JAファーム福岡」を発足しました。

農家の労力軽減やコストダウンを図るための農作業受託を実施しています。



<事業化(プロジェクト化)成功のポイント>

● JAと一体となった作業受付の広報活動



▲ ホームページや広報誌「Jam」などでの広報活動

● グリーンセンターやTACなどJAとの情報共有

⇒ 農作業の委託が増加

● 育苗センターやライスセンターとの連携により、苗供給や籾搬入の調整ができるように

⇒ 田植・稲刈りの作業増加

お問合せ・お申込み

1 お問合せ内容

お問合せ項目 A: 貸し農園 B: 収穫体験 C: 体験農園 D: 農機レンタル E: 農業塾 F: 農作業のご依頼 G: その他

お問合せ内容

2 お申込み内容

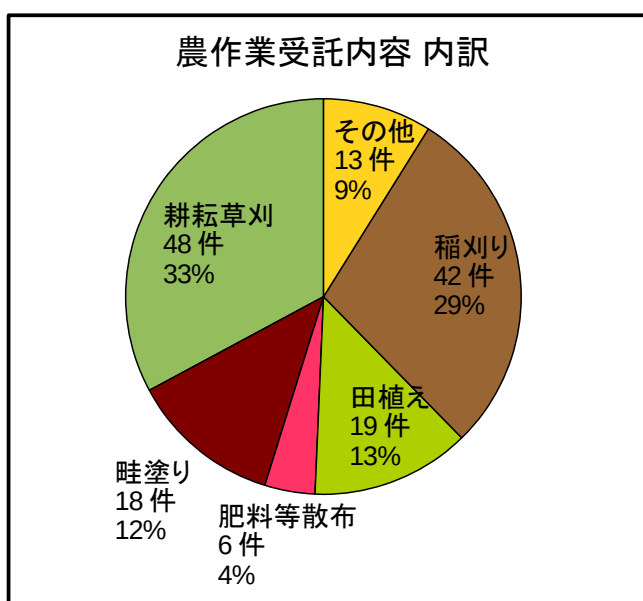
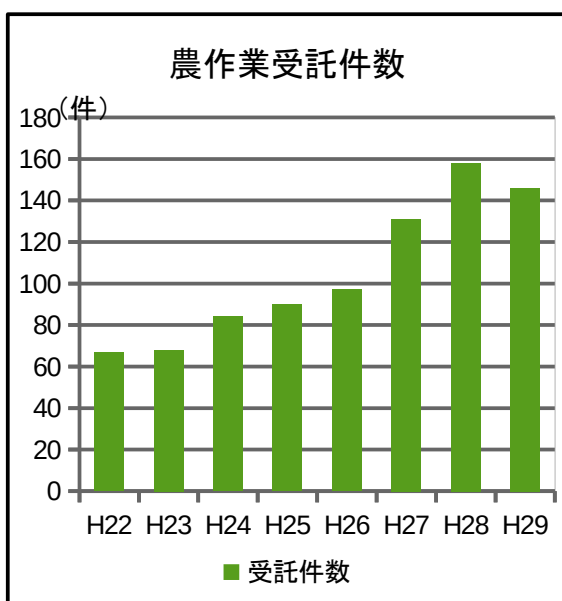
お申込み項目 A: 貸し農園 B: 収穫体験 C: 体験農園

貸し農園名 A: 桜山ファーム B: 田尻ファーム C: 西原ファーム D: 野方ファーム E: 今宿上ノ原ファーム F: 重留ファーム G: 吉武ファーム H: 宿上ノ原第2ファーム

希望返金額

詳細連絡先 詳細などあればご記入ください。

<農家のメリット・農協のメリット>

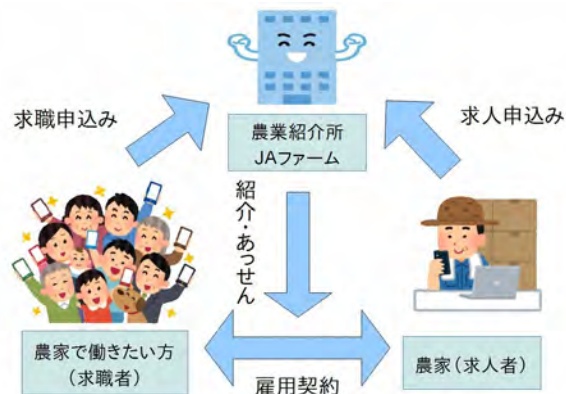


【農の応援事業 無料でヘルパーを紹介しています】

部署：農業振興課・(株)JAファーム福岡

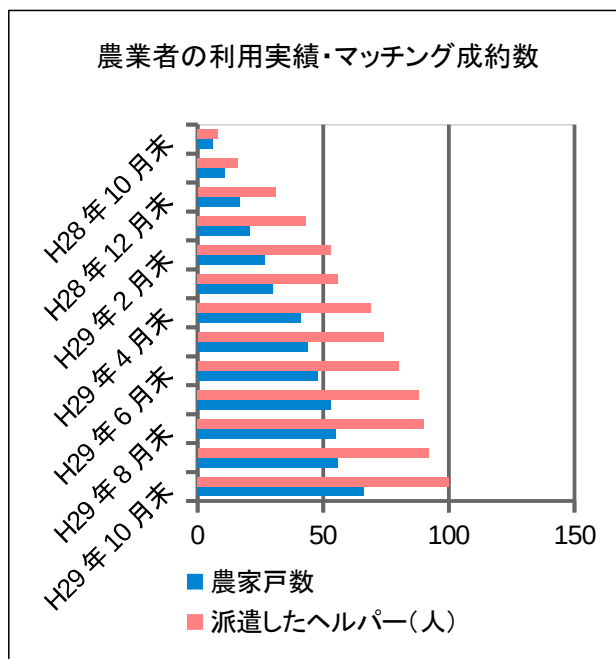
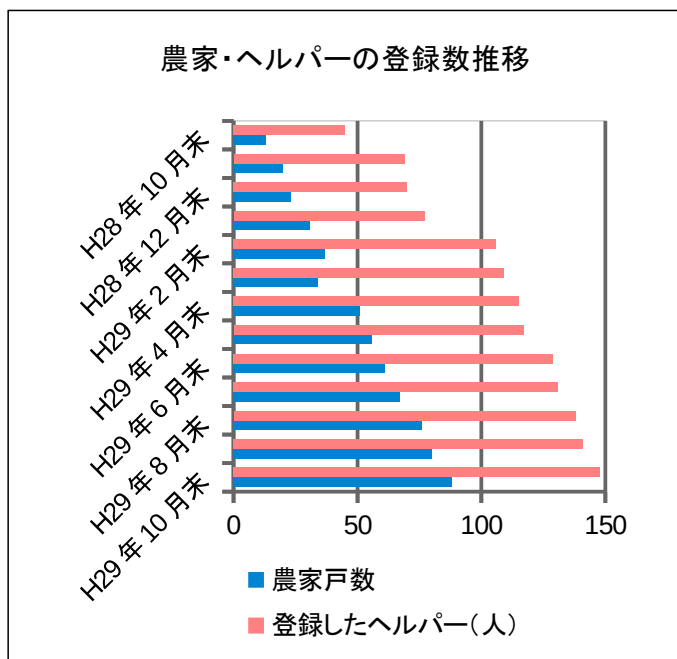
<取組みの概要>

(株)JAファーム福岡は、農家の労働力確保支援のため、農家で働きたい方(ヘルパー)を集めて、労働力不足に悩む農業者に無料でヘルパーを紹介しています。



- 求人を求める農家および農家で働きたい求職者(ヘルパー)は、JAファームにてそれぞれ登録申請を行います。
- JAファームは雇用条件に見合う農家とヘルパーのマッチングを行い、雇用契約を結ぶ支援を実施しています。なお、賃金は農家からヘルパーに直接支払います。
- 求人農家は、市内JAの正組合員を対象としています。作業内容は軽微な農作業(出荷調整作業・草取り・補助的作業)とし、誰でもできる農作業のお手伝いをします。

<農の応援事業の実績>



<農家のメリット・農協のメリット>

農家からの声

● 収穫作業が忙しい時期に3名のヘルパーを派遣してもらい、収穫作業を行ったが、あっという間に収穫が出来た。一人で作業をしていたら何倍もの時間と労力が掛かっていた。ヘルパーを無料で紹介してくれるJAファームに大感謝です。

● ヘルパーを紹介してもらい作業をしてもらっているが、農業を経験されていないため、思った以上に作業がはかどらない。時間を掛けて作業を覚えてもらい色々な経験を積んでもらいながら戦力にしていきます。

ヘルパーからの声

● 丁寧な対応で農家を紹介してもらい大変感謝してます。農家の方が満足できる農作業が出来るか不安ですが頑張ってみます。

● とても良い農家を紹介してもらいありがとうございました。作業は大変ですが楽しく働いています。





JA福岡市

JA福岡市のホームページ

<http://www.ja-fukuoka.or.jp>